

SeaKayak



種 目：SeaKayak
海 域：福井県
場 所：舞鶴半島
日 時：04.08.13-14
コ ー ス：野原 - 舞鶴半島
メンバー：加藤・大塚・木倉・大本・恵



山で疲れた緊張感や脱力感は海のミネラルでリフレッシュするのが一番体に合っていると思っている。カヤックに乗って大海原へ漕ぎ出した瞬間から心が躍動し沢登りなどの極度の緊張感がすっかり癒され海に飲み込まれていくようだ。また海に潜って魚と対峙しているときなどは一対一の駆け引きで違った緊張感ある。

13日 晴れ

5:30 姫路出発

前日に私のHghiAceにSeaKayak5艇を積み込み、中国道 - 舞鶴道に乗り継ぎ舞鶴東ICから野原海水浴場に着くころは8時を回っていた。



海に浮かぶ槍ヶ岳

8:33 出艇

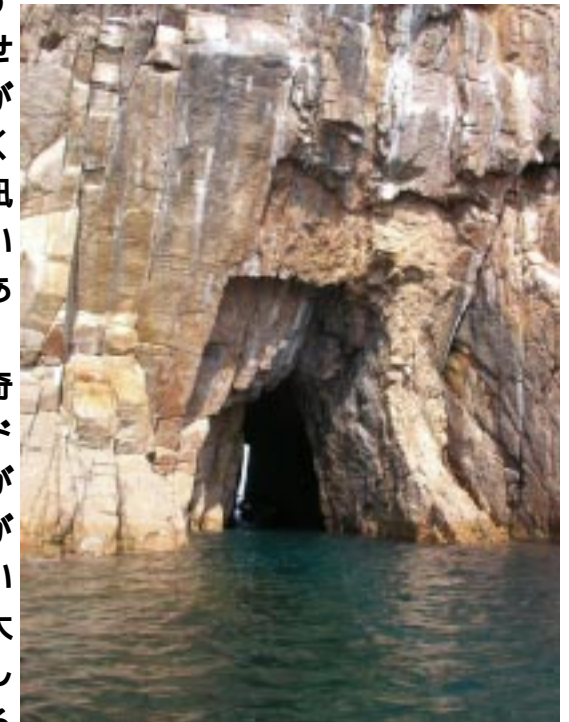
ここは去年もキャンプ泊できているので要領は把握している。年に一度のあの忘れもしない海のミルクの「岩ガキ」が食べたくて今年もやってきたのだ。そのために

今回はパール、カナヅチ、プ라이어の七つ道具を持参してきているのだ。

9:00 洞窟探検

のんびりと北北東へ漕ぎ出すと様々な奇岩が現れて楽しませてくれ。またウミネコが「みゃー、ミャー」と歓迎してくれている。今日の無風のベタ凧には何一つ注意するものはないかのような穏やかな条件である。

ほどなく漕ぐと槍ヶ岳のような奇岩が見えてきてそのすぐ横のドングリの島はドテツ腹が貫通していてカヤック一艇がちょうど入るほどの洞窟がみついている。幾百年にも渡り冬の大しけの時に打ち付けられて少しづつ貫通していったのである



洞窟へ探検だ



洞窟島



ラクダ島



毛島

う。大自然が作り出す脅威である。雪山や沢といい本当に人間では作り得ない素晴らしい造形物を織りなしている。ぽっかり浮かんだ小さな岩に曲がりくねった松が息づいている姿にはどんなに評価されている盆栽師でもかなわないだろう。

去年のキャンプサイトを探しながら上陸場所を探す。今はお盆とあって船で岩壁に渡してもらっての釣り客がよく目立つ。声をかけると皆目釣れないようだ、この炎天下にかわいそうに。素潜りを楽しんでいる我々にとっては釣りなんてする気も起こらない。

9:30 上陸

キャンプ地を確認するために一度上陸する。昨年よりも格段に水の透明度がありまるで別世界のようなようである。陸では今頃はお盆の帰省ラッシュで高速道路もとんでもない混みようで難儀しているだろうに。我々は人の気配すら感じない無人浜に上陸してのんびりしている。

再び漕ぎ出し、半島の先端を回り込み毛島のすぐ近くまで漕ぐ。外海に出ても海は穏やかで艇に乗っていても昼寝が出来るくらいである。今年はGWの白山の山スキーを終えてからその次ぎの週末から殆ど



休憩



上陸



上陸湾



天然岩ガキ



夜の吹奏楽

SeaKayak で日本海を漕いでいるのでこんなにも波が穏やかなのは珍しいくらいだ。

11:15 再び上陸

さぁ、お膳立てもそろった事だし、そろそろ潜って今夜の酒の肴を母なる海からもらい受けるとしますか。

ひとたび潜れば魚も豊富で青ベラ、ガシラ、タコ、カワハギ、アブラメ、サザエ、アワビ、そして待望の岩ガキ・・・と今夜のご馳走もそろえば後は料理が待っている。

魚貝類を取ればそれらを料理が出来なくてはそれは殺生するばかりで生きたものを取るに値しない。

すべてのお膳立てがそろったところで海の幸に感謝の気持ちをこめて乾杯！。

水平線に夕日が沈みだすころには宴もたけなわで、遠くには漁り火が浮かびだし、空には星が輝きだすころには、加藤氏お得意のコカリナ、オカリナ、ハーモニカ、そしてケーナの音色が湾一杯に響き渡り、さざ波の音とのコラボレーションで星明かりの下での幻想的な世界がかもし出されていつしか(-_-)° zzz...モードに入っていた。

14日 晴れ

さざ波の目覚ましでゆっくりとした朝を迎えてモーニングコーヒーを飲んでいると、ヒグラシが歌い出し、海にも秋の始まりが来たこと

を伝えている。

朝食を済ますとみんなそれぞれにモーニングダイブに酔いしれている。

素晴らしいひとときを胸にしまって昼前には帰港し帰路につく。



海の幸に感謝



ガシラ刺身



サザエ壺焼き



アワビ刺身



岩ガキバター焼き



豪華料理の出来上がり

山・沢・海で遊んだ楽しかった Summer Vacation も終わりに近づき、大自然と対峙して目に見えぬ心躍動する鎧を着せてもらっているのだが、現実社会にひとたび戻れば、その鎧も様々な自己虫によっていとも簡単にもろく食い尽くされていけよう・・・早く週末がきて鎧を着たいと思うしだいである。